

拠点リーダー挨拶

(お茶の水女子大学 子ども発達教育研究センター長 内田伸子)

拠点システム事業

- ・ 幼児教育に関する途上国協力強化のための拠点システム構築ということで、情報収集とモデルの構築という副題をつけて、6月からこの事業に取り組んできた。
- ・ 文部科学省では、国際社会が進めている「万人のための教育」、ダカール行動枠組み達成に貢献することを重要な政策と位置づけ、2002年に開かれたカナナスキスサミットの際に発足した、成長のための基礎教育イニシアティブに基づき、途上国に対する初等中等教育分野の協力強化に対して取り組むため、拠点システムの構築を進めてきた。
- ・ 拠点システムの構築では、広島大学と筑波大学を中核として、国公立大学及びNGO、民間企業からなるネットワークのもとに、具体的な活動を開始している。お茶の水女子大学では、幼児教育分野で実績があると認められたのか、子ども発達教育研究センターの方に、話があった。

本センターにおける活動のねらい

- ・ 途上国「開発」の専門家が、箕浦康子先生を除いてはいないという、非常に乏しい経験しかないという中で、一体どういう風に教育協力をしていったらいいかを考え、青年海外協力隊を始めとする、協力経験やノウハウを整理・蓄積し、教育協力者が自由に参照・活用できるようにし、途上国の要請に組織的体系的に対応していけるような事業を進めていくこととした。

今年度の活動

- ・ 第1に、途上国の実情に適応的な日本の幼児教育の可能性を探った。そのために、カンボジア・マレーシアなど、すでに幼児教育が始まっているところでの実情を調べた。スリランカも計画していたが、情勢が不安定であり実現できなかった。
- ・ 第2に、日本の幼児教育経験を整理した。幼児教育のハンドブックを作成し、現場で働かれる海外青年協力隊の幼児教育部門の先生方に使っていただいたり、向こうの幼児教育関係の政府の役人にも、将来のカリキュラムを構築するための資料として使っていただく。

今後の活動

- ・ 第1に、幼児教育システムの運営の仕組み、マネージメントに関する協力について何らかのアイデアを提供できないか。ただし、先ほど前田先生たちとお話したが、幼児教育のシステムだけではなく、それを取り巻く文化・社会的な状況、本当に社会全体の仕組みの中でこの幼児教育システムを上手く運営するための協力、そのためのアイデアというのをを出していきたい。

- ・第 2 に、カリキュラム構築に対して何らかの示唆が与えられるような協力ができないか。そのためには、今製作しているハンドブックを充実させるということと、実践活動の映像アーカイブ提供など。時には SES などを使って衛星中継で実際に保育の状況を見ていただくとかいうような試みも可能かもしれない。
- ・第 3 に、教師養成プログラム。研修制度も含めて、その策定に対して協力できることはないか。そのためには、教師養成校の指導者とか政府関係者の受け入れなどにおいて具体的な支援活動ができないか、というようなことを考えている。